

日々の努力でつかんだ栄冠

「ベスト16を目標に大会に挑みましたが、どんどん勝ち進んでいき、波に乗ることができました。」

相手にリードされているときでも互いに『大丈夫』と声をかけ合っ、冷静になったことが、勝利につながったと思います」と、7月に行われた『東日本小学生選抜ソフトテニス大会』を振り返るのは、後衛からコースを突いて相手を揺さぶり、得点のチャンスを作る義達さん。



▲約2カ月後に迫った『全日本東西対抗大会』に向けて技術を磨く佐々木・義達ペア

160センチの長身と長いリーチを生かし、攻守でダイナミックなプレーが光る佐々木さんは、一進一退の攻防を繰り返して、大接戦となった決勝戦について、「いろいろな試合展開を想定して大会に臨んだことで、ほど良い緊張感のなか、

自然体に近い状態でプレーができました。いつも2人で心がけている、最後まで諦めないテニスを貫くことができて良かったです」と笑顔を見せます。

週4日、基礎や前衛・後衛に特化した練習などに励んでいる2人は、「毎日の練習の成果が大会などでの結果につながることを楽しんでです」とソフトテニスの魅力を教えてくれました。

互いに高め合いながら

小学1年生のときに初めてペアを組んでから6年。結成当初は連携がうまくいかず、けんかになることもあったといいます。

監督と相談して、試合中の声かけなど、コミュニケーションをより大切にするようになり、チームワークが自分たちの強みになったと話す2人。「ここまでソフトテニスを続けてこられたのも、監督やコーチ、家族など、支えてくれる人たちがいたからこそ。さまざまな大会で逆転勝利を収めてきた経験から学んだ諦めない心で、来年1月に出場する『全日本東西対抗大会』でも良い結果を出したいです」と意気込みを語り、今日も練習に励みます。



KIRARI

さ さ き な ほ
佐々木南帆さん (桜木町)

よし たつ み はる
義達心陽さん (桜木町)

仙台市で7月に行われた『東日本小学生選抜ソフトテニス大会』。84ペアで争われたトーナメントを制し、『女子個人の部』で見事に北海道勢初となる栄冠を勝ち取った佐々木・義達ペア。

今号では、幼少期から『登別子ども軟庭倶楽部』に所属し、ともに練習に励んでいる佐々木さんと義達さんに、日々の活動やソフトテニスへの思いを伺いました。

大舞台で自分たちのテニスを貫く



- ◎佐々木さん (右) 平成19年、江差町生まれ。12歳。青葉小学校6年生。幼稚園のころにソフトテニスと出会う。ダブルスでは前衛を担当している。
- ◎義達さん (左) 平成20年、登別市生まれ。12歳。青葉小学校6年生。同じ幼稚園に通っていた佐々木さんの誘いでソフトテニスを始める。ダブルスでは後衛を担当している。